

## シラバス（授業概要）

2025 年度

授業科目名	航空知識 I									
学科・コース	エアライン科 客室乗務員コース									
担当教員	今井 美佳									
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位				
講義		1	通年	必修	30	2				
授業目的 到達目標	航空業界における様々な仕事を理解し、必須知識である専門用語やレターコードの習得を目標とします。									
授業手法	・対面 ○	・遠隔	・対面/遠隔	・オンデマンド						
アクティブ ラーニング	事前学習型授業 ○	反転授業		調査授業	フィールドワーク					
	双方向アンケート	ペアワーク		グループワーク ○	ロールプレイ					
	プレゼンテーション	PBL		模擬授業	その他					
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標					
	1～2	DVD鑑賞資料を用いたのグループワーク			① 国内外主要航空会社コードを理解できる ② 国内外主要空港コードを理解できる ③ アルファベットコードを理解し 様々な単語をコードに変換し表現できる ④ 基本的な専門用語を理解できる ⑤ 基本的な危険物知識を理解できる ⑥ 国際線における100mlルールを理解できる ⑦ アライアンスをグループ分けできる ⑧ 出入国知識、CIQ各分野の役割を理解できる					
	3～4	日本及び外国主要航空会社コード								
	5～8	アライアンス及び共同運航								
	9～10	日本及び海外主要空港コード								
	11～12	マルチプルエアポート、アルファベットコード								
	13～14	専門用語								
	15～16	前期試験								
	17～20	世界の旅客機とメーカー、シートマップ								
	21～22	航空機について								
	23～24	基本的な危険物及び手荷物ルール								
	25～26	出入国知識（旅券・査証・CIQ）								
	27～28	総復習								
	29～30	後期試験								
	成績評価方法	出欠席（20%）、授業態度（20%）、前期試験（30%）、後期試験（30%）								
使用テキスト ／教材	・航空知識テキスト ・講師作成資料 ・夢のお仕事シリーズDVD									
関連科目	航空知識 II									
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である。									

## シラバス（授業概要）

2025 年度

授業科目名	グラウンドハンドリング概論						
学科・コース	エアライン科／客室乗務員コース						
担当教員	望月 照夫						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義	・演習	1	通年	必修	30	2	
授業目的 到達目標	航空機の到着から次のフライトまでに、機側で行われる様々な準備業務について正しく理解し、グラウンドハンドリング業務のは幅広い知識を身につけることを目標とします。また、16時間は中部スカイサポート（株）との連携授業です。						
授業手法	・対面 ○	・遠隔	・対面/遠隔	・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク		グループワーク		ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他 ○
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	グラウンドハンドリングとは・空港の施設と名称			① グラウンドハンドリングの概要の理解 ② 機側作業のフローチャートを描ける ③ GSEの機能を説明できる ④ ULDの種類と搭載可能な機体の理解 ⑤ ロードシートが読めること ⑥ 航空貨物の種類と取扱いを理解する		
	3～4	ステイタイムと機側作業					
	5～8	中部スカイサポート連携授業(誘導業務実習)					
	9～10	GSEの種類と役割					
	11～14	中部スカイサポート連携授業(空港見学)					
	15～16	ULDの搭降載					
	17～18	前期評価試験					
	19～22	中部スカイサポート連携授業(ソーティング作業)					
	23～24	航空貨物と必要な書類					
	25～28	中部スカイサポート連携授業(タイダウン実習)					
	29～30	後期評価試験					
成績評価方法	【前期】評価試験60%・出席率20%・授業態度20% 【後期】評価試験60%（うち連携企業評価50%）・出席率20%・授業態度20%						
使用テキスト ／教材	航空機のグラウンドハンドリング(日本航空技術協会)・自作プリント						
関連科目	旅客実習Ⅱ						
その他	グラウンドハンドリングに興味を持ち、その仕事に就職できるよう期待します。						

## シラバス（授業概要）

2025 年度

授業科目名	TIM基礎						
学科・コース	エアライン科 客室乗務員コース						
担当教員	今井 美佳						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義	・演習	1	後期	必修	30	2	
授業目的 到達目標	国際線の搭乗手続き時に必須である、各国の旅券・査証・入国の際の規則についての英文をTIM(Travel Information Manual)を用いて読み取る基礎力を身につけることを目指します。						
授業手法	・対面 <input type="radio"/>	・遠隔 <input type="checkbox"/>	・対面/遠隔 <input type="checkbox"/>	・オンデマンド <input type="checkbox"/>			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業 <input type="radio"/>		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク		グループワーク <input type="radio"/>		ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	海外渡航における旅券、査証、TIMの重要性			① TIMの重要性、電子渡航認証を理解できる。 ② 授業で取り上げた各国の空港コードを理解できる。 ③ 入国時における旅券の必要残存期限を計算することができる。 ④ 授業で取り上げた各国の査証の有無を理解できる。 ⑤ 入国時における無査証での滞在可能期限を計算することができる。 ⑥ 英文でのTIMATICの文面に慣れ、重要な箇所を見つけることができる。 ⑦ あらゆる旅程からTIMATICを見て搭乗手続の可否を判断できる。		
	3～4	電子渡航認証について					
	5～6	日本国籍：シンガポール行きTIM内容					
	7～8	日本国籍：台湾行きTIM内容					
	9～10	日本国籍：韓国行きTIM内容					
	11～12	日本国籍：中国行きTIM内容					
	13～14	日本国籍：オーストリア行きTIM内容					
	15～18	無査証滞在可能期限の計算 基礎					
	19～20	小テスト					
	21～24	無査証滞在可能期限の計算 応用					
	25～28	演習、総復習					
	29～30	後期試験					
成績評価方法	後期末本試験60%、小テスト30%、出席率及び授業態度10%						
使用テキスト ／教材	講師作成資料						
関連科目							
その他	※実務経験がある教員が担当する科目である。 電子辞書、電卓を持参すること。 小テストは1回のみの実施の為、欠席の場合は課題提出にて評価とする。						

## シラバス（授業概要）

2025 年度

授業科目名	エアライン筆記対策						
学科・コース	エアライン科/客室乗務員コース						
担当教員	山崎 弘						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義	・演習	1	通年	必修	60	4	
授業目的 到達目標	不得意とする非言語分野の学力向上をし、採用試験（SPI）で成果を出すことを目標とします。						
授業手法	・対面	・遠隔	・対面/遠隔	○	・オンデマンド		
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク	○	グループワーク		ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略				わかる目標・できる目標	
	1 ~ 4	基礎学力の確認と基本計算力				① 基本的計算力が定着する	
	5 ~ 10	数学的各種基本単位の修得				② 代数を扱える	
	11 ~ 15	基礎数学の考え方（百分率）				③ 百分率の計算ができる	
	16 ~ 14	基礎数学の考え方（距離、時間、速さ、容積）				④ 推論に対して情報を図示できる	
	15 ~ 20	割合と損益計算				⑤ 確率の考え方を習得して問題を解ける	
	21 ~ 25	推論と命題				⑥ 順列と組み合わせの相違を理解する	
	26 ~ 30	確率、組合せ、順列				⑦ 順列・組み合わせの問題が回答できる	
	31 ~ 34	集合の理論				⑧ 逆数を理解し仕事算問題を解ける	
	35 ~ 40	仕事算の考え方				⑨ 表とグラフの解釈ができる	
	41 ~ 42	表とグラフ				⑩ グラフの領域問題が解ける	
	43 ~ 45	資料解釈におけるデータの見方				⑪ 時間内での問題回答数をあげられる	
	46 ~ 60	SPI実践対策（練習問題による演習含む）				⑫ 設問に対する解法の手段を選定できる	
					⑬ 様々な出題に解法の選択ができる		
成績評価方法	【前期】・期末筆記試験（50%）、出席率（50%） 【後期】・期末筆記試験（40%）、後期課題（30%）、出席率（30%）						
使用テキスト ／教材	教材：キャリアデザインノート（オリジナルテキスト） 副教材（演習問題用）：これが本当のSPI3だ（講談社）						
関連科目	客室キャリアデザインII						
その他							

## シラバス（授業概要）

2025 年度

授業科目名	エアライン英語 I						
学科・コース	エアライン科/客室乗務員コース						
担当教員	松永 清美・関根 由美子						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義	・演習	1	通年	必修	30	2	
授業目的 到達目標	エアライン採用試験に向けTOEIC550点取得を目指します。						
授業手法	・対面	・遠隔	・対面/遠隔	・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業	○	反転授業	調査授業	フィールドワーク		
	双方向アンケート		ペアワーク	グループワーク	ロールプレイ	○	
	プレゼンテーション	○	PBL	模擬授業	その他		
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1~4	授業説明、各パート毎の解説					
	5~6	TOEICミニ模試			①TOEICテストについて理解する		
	7~8	TOEIC TEST Part1・2・5 説明と問題演習			② 各自の得意パートと苦手パートの把握		
	9~10	前期末テスト			③目標スコアの設定		
	11~18	TOEIC TEST Part3・4・6・7 説明と問題演習			④目標達成に向けた取り組み方法を確認		
	19~20	TOEICミニ模試			⑤単語力強化によるリーディング力強化		
	21~26	TOEIC TEST Part3・4・6・7 説明と問題演習			⑥ 英語耳を作り、リスニング力を強化		
	27~28	後期期末試験			⑦ 英語の音声に近い発音を習得する		
	29~30	TOEIC TEST Part3・4・6・7 説明と問題演習			⑧実際に仕事で使えるフレーズや単語を身に付ける		
成績評価方法	期末テスト50% 平常点（出席率・授業態度・課題提出・小テスト）50%						
使用テキスト ／教材	・キクタンTOEIC L&RテストSCORE500 ・POSITIVE STEPS TO THE TOEIC L&RTEST ・ミニ模試トリプル10 TOEIC L&Rテスト ・SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST BEGINNER						
関連科目	エアライン英語 II						
その他	レベルに応じて2クラス編成 電子辞書または英和辞典を持参すること						

## シラバス（授業概要）

2025 年度

授業科目名	手話演習 I						
学科・コース	エアライン科／客室乗務員コース						
担当教員	大川香織						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
演習	・講義	1	通年	必修	60	2	
授業目的 到達目標	手話検定 4 級合格を目標とします。また、基本的な手話会話を習得することを目指します。						
授業手法	・対面	○	・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業	○	調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク	○	グループワーク	○	ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	講義① 聴覚障害の基礎知識					
	3～12	第1講座～第5講座			① 基本的な会話を覚える		
	13～14	講義② 手話の基礎知識（ことばのしくみ）			② 表情を豊かに表す		
	15～44	第6講座～第20講座（8講座・20講座テスト）			③ 声を出さずに手話を表す		
	45～46	講義③ 聴覚障害者の生活（ゲスト講師）			④ 手話は言語であることを知る		
	47～48	ゲスト講師授業			⑤ 聴覚障害について理解する		
	49～52	手話検定対策授業			⑥ 全国手話検定 4 級合格を目指す		
	53～56	手話検定対策授業（ゲスト講師）			⑦ ゲスト講師との会話練習を学ぶ		
	57～60	手話検定対策授業			⑧ 指文字、4 級単語を覚える		
				⑨ 動画、ホームワークを予習する			
				⑩ 伝える努力をする			
成績評価方法	テスト60% 出席率40%						
使用テキスト ／教材	手話奉仕員養成テキスト 手話を学ぼう 手話で話そう						
関連科目	手話演習Ⅱ、ユニバーサルサービス						
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である						

授業科目名	FA面接						
学科・コース	エアライン科／客室乗務員コース						
担当教員	松永 清美 ・ 阪本 知恵 ・ 蓬萊 正樹						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
実技		1	通年	必修	30	1	
授業目的 到達目標	客室乗務員の採用面接試験を突破することを目的とします。第一印象の好感度を上げ、自己表現力を高めるため自己分析を徹底的に行います。						
授業手法	・対面	○	・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド
アクティブ ラーニング	事前学習型授業	○	反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク	○	グループワーク	○	ロールプレイ
	プレゼンテーション	○	PBL		模擬授業		その他
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略				わかる目標・できる目標	
	1～2	航空業界の面接を知る				① 航空業界の採用面接試験について知る ② 適切な言葉遣いができる ③ 姿勢・発声・立居振舞を磨く ④ 表情良く話ができる ⑤ 好感度の高い第一印象を作り上げる ⑥ 自己分析を徹底し、自己を理解する ⑦ 伝えたいことを明確に伝えられる スキルを身に付ける ⑧ どのような事を聞かれても落ち着いて 自身の想いを伝えられる	
	3～4	立ち姿 座り姿 入退室 第一印象					
	5～8	自己分析 表情コントロール					
	9～14	エントリーシート対策（自己PR、志望動機等）					
	15～18	模擬面接（過去のエントリーシートに基づく）基本					
	19～22	模擬面接（過去のエントリーシートに基づく）企業ごと					
	23～26	企業様就活特別授業 模擬面接					
	27～30	ディスカッション 就職対策に向けて					
成績評価方法	出欠席（30％）・提出物、取り組み姿勢（30％）・各学期末試験（40％）						
使用テキスト ／教材	面接テキスト（オリジナル）						
関連科目	客室キャリアデザインⅡ						
その他	身だしなみを整えて受講すること ※実務経験のある教員が担当する科目である						

## シラバス（授業概要）

2025 年度

授業科目名	客室実習 I						
学科・コース	エアライン科／客室乗務員コース						
担当教員	阪本 知恵・松永 清美						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
実技		1	通年	必修	60	2	
授業目的 到達目標	保安要員とサービス要員の二つの役割を理解しその責任を全うするために必要な考え方、資質を身につけることを目標とします。実習を通し正しい言葉遣い、美しい立居振舞を身につけます。						
授業手法	・対面 ○	・遠隔	・対面/遠隔	・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業 ○		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク ○		グループワーク ○		ロールプレイ ○
	プレゼンテーション ○		PBL		模擬授業		その他
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～4	概要説明、目標設定、スケジュール					
	5～8	業務の流れ、客室乗務員の資質、接客用語			① 2年間の明確な目標設定と月ごとの目標、日々の目標等を定めることができる		
	9～14	FDA様連携授業			② 客室乗務員の業務がわかる		
	15～22	国内研修			③ 客室乗務員に必要な資質がわかり、身につけるために必要なことを学ぶ		
	23～28	サービス業務復習			④ 実際のサービスについて知り、実践できる		
	29～30	前期末試験			⑤ 学んだことを他コースの学生へ提供できる		
	31～36	前期復習、マインドセット			⑥ 機内の設備や装備品について知識を得る		
	37～40	FDA様連携授業			⑦ 保安用品や保安業務の重要性を知る		
	41～44	コース外連携授業LA			⑧ 緊急時対応について学び、実際に脱出研修で体験する		
	45～46	保安の知識（機内の設備と装備品）			⑨ 客室乗務員の大切な業務や必要な資質を知り目指す姿を明確にする		
	47～48	保安の知識（安全性チェック）					
	49～54	航空機緊急脱出訓練研修					
55～58	保安業務総復習等						
59～60	後期末試験						
成績評価方法	・ 出欠席（20%） ・ 授業内取り組み（35%） ・ 各学期末試験（35%） ・ FDA様評価（10%）						
使用テキスト ／教材	・ エアラインテキスト(オリジナル)						
関連科目	客室実習 II						
その他	身だしなみを整えて受講すること（女子学生はスカーフ着用必須） ※実務経験のある教員が担当する科目である						

## シラバス（授業概要）

2025 年度

授業科目名	客室英会話 I						
学科・コース	エアライン科／客室乗務員コース						
担当教員	阪本 知恵						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
演習	・講義	1	通年	必修	30	1	
授業目的 到達目標	客室乗務員の業務、航空機について英語で学び、業務理解に繋がります。また、様々な表現や航空業界で使われる単語を習得することで英語力を向上させることを目的とします。						
授業手法	・対面	○	・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド
アクティブ ラーニング	事前学習型授業	○	反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク	○	グループワーク	○	ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	Unit 1: The Flight Crew			① 客室乗務員の業務が英語で理解できる ② 航空業界全体のつながりを英語で理解できる ③ 客室乗務員に必要な資質が英語で理解できる ④ 客室乗務員の業務の流れを英語で理解できる ⑤ 単語を正しく発音できる ⑥ 業界用語を理解する ⑦ 機体構造について知り、用語と機能がわかる ⑧ 機内備品について理解する ⑨ 航空機内特殊環境を知る ⑩ 運航形態がわかる		
	3～4	Unit 2: Airline Employees					
	5～6	Unit 3: People in the Airport					
	7～8	Unit 4: Parts of the Airport					
	9～10	Unit 5: Airport Security					
	11～12	Unit 6: Parts of an Aircraft					
	13～16	Unit 7&8: Parts of the Cabin					
	17～18	Unit 9: Physical Demands					
	19～20	Unit 10: Appearance					
	21～24	Unit 12: Types of Flights					
	25～26	Unit 13: Types of Aircraft					
	27～28	Unit 14: Radio Communications					
	29～30	学期末試験					
成績評価方法	出欠席（20％） 取り組み姿勢（30％） 期末筆記試験（50％）						
使用テキスト ／教材	CAREER PATHS Flight Attendant (Express Publishing)						
関連科目	客室英会話 II						
その他	※実務経験のある教員が担当する科目である						

## シラバス（授業概要）

2025 年度

授業科目名	客室キャリアデザインⅠ						
学科・コース	エアライン科／客室乗務員コース						
担当教員	小尾純子・大橋美穂子・蓬萊正樹						
授業形態(主)	授業形態	履修年次	履修学期	必修・選択	総時間数	単位	
講義		1	通年	必修	30	2	
授業目的 到達目標	客室乗務員の適性を理解し、その姿に自分自身を近づけることを目標とします。						
授業手法	・対面	○	・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		反転授業		調査授業		フィールドワーク
	双方向アンケート		ペアワーク	○	グループワーク	○	ロールプレイ
	プレゼンテーション		PBL		模擬授業		その他
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略			わかる目標・できる目標		
	1～2	授業の目標の理解・客室乗務員になって何がしたいか					
	3～4	心と体を鍛える①			① 客室乗務員の適性を理解する。		
	5～6	社会人基礎力			② 自己管理能力の習得。		
	7～8	航空会社と客室乗務員の役割			③ 客室乗務員向きの生活習慣の体得。		
	9～10	国内研修に向けて			④ 客室乗務員向きの印象を作る。		
	11～12	心と体を鍛える②			⑤ 客室乗務員向きのコミュニケーション法		
	13～14	客室乗務員の生活と訓練			⑥ 企業研究の手法を理解する。		
	15～16	評価			⑦ 肯定的思考力の体得。		
	17～18	CAPから見た適性・企業研究のヒント			⑧ 想像力と会話力の強化。		
	19～20	夏休み課題FB			⑨ 働くことへの心構えができる。		
	21～22	ESのFB			⑩ ストレスコントロール法の体得		
	23～24	伝える力					
	25～26	会話のキャッチボール					
27～28	言葉を磨く						
29～30	評価						
成績評価方法	出欠席40% 提出物30% 期末テスト30%						
使用テキスト ／教材	講師オリジナル書き込みノート						
関連科目	客室キャリアデザインⅡ						
その他	※実務経験がある教員が担当する科目である。						